

六ツ美の歴史

・六ツ美のあけぼの

矢作川流域の洪積平野は海面が現在より低かった更新世（洪積世）の最終氷河期の頃から、海面がずっと高くなる晩氷期（約1万年から1万数千年前まで）～後氷期（晩氷期から現在まで）の時代に、古い時代の矢作川によって運ばれた土砂が堆積して形成された。縄文時代（約1万6,500年前から約3,000年前）の初めの「海進」や「海退」によって湿地化していたところに洪水のたびに、上流から土砂などが運ばれてきて堆積し、平野が形成された。

今から、2万年前の最終氷河期の最盛期のころの海面の高さは、氷河が発達して海水の量が減ってしまったために、今の海面の高さより130mから140mも低く、三河湾や伊勢湾は陸地になっていた。その後の、「海進」や「海退」によって海岸線は変化するが、美矢井橋の近くまで海になっていた時代は縄文時代の初めころ（約5,000年前）と言われている。その後、徐々に海岸線が今の位置までさがると、六ツ美の一带は湿地になった。

【更新世】

更新世（こうしんせい）は地質時代の区分の一つで、約258万年前から約1万年前までの期間。第四紀の第一の世。更新世のほとんどは氷河時代であった。



・六ツ美の原始時代（縄文時代・弥生時代）

六ツ美地区の原始時代の様子は、遺跡の調査などによる確認がなされていないが、周辺（浅井、上羽角）に残る遺跡などから推定可能である。上羽角の住崎では、旧石器時代（約1万年前）のやじりが発見されている。また、上羽角では「釜田貝塚」（約6,000年前）、「釜田遺跡」（約4,000年前）が発見され、早くからこの地域に人がいたことが証明されている。縄文時代の中期から晩期にかけて、定住の傾向が顕著になってきた。縄文時代も終わり頃になると、生活は徐々に定住し始めて原始的な農耕を営み、生活の場所も山間や海辺から平野部に集まるようになった。

六ツ美地域の昔は碧海（あおみ）郡と呼ばれていた。縄文時代には、海岸が内陸深く弓形に入

り込んでいたので、碧（あお）い海に接した土地ということでその名がついたと考えられている。

平成7年に行われた地質ボーリング調査（六ッ美西部小学校）で六ッ美平野においても地下20～40mのところに埋もれていた氷河期の氷河の谷が発見された。1万年より前の矢作川を復元してみると、幾筋かの氷河の谷が六ッ美地区に集中し合流していて、その上を砂と泥が交互に積み重なって積り、現在の六ッ美平野を形成していると考えられている。

2,000年前の弥生時代の矢作川本流は、現在に近い位置に流れを変え、八帖町付近から東へまがり、宮地・法性寺を経て六ッ美地区の東にあったと推定される。弥生時代に入って平野部に人が定住生活をし、稲作を始めるようになったと考えられている。東浅井の標高30mの丘にはこの当時の多くの遺跡群が存在する。当時、矢作川の本流が六ッ美村の東を流れていたため、桜井町（安城）の「古井遺跡」を中心に多くの遺跡群が存在している。

〔弥生時代〕

弥生時代（やよいじだい）は、北海道・沖縄を除く日本列島における時代区分の一つであり、縄文時代に続き、古墳時代に先行する。およそ紀元前3世紀中頃（この年代には異論もある）から、紀元後3世紀中頃までにあたる時代の名称である。

・碧海郡の成り立ち（奈良時代・平安時代）

郡という名の始まりは日本書紀に「成務天皇（85年～191年）4年2月国郡立長県置首」と記されているところから始まる。孝徳天皇（596年～654年）の大化の改新（646年）を迎えるころになると制度が改められ、これまでの国造県主の制度を廃止して、国司・郡司を任命して地方を分割するようになった。こうして、これまでの氏族制度は終わって、郡・県の新しい制度になり、国・郡という政治的区画が初めて登場した。後になって、郡・県の制度が乱れ、地方には荘園ができ、貴族が勢力をのびしてくるようになり、郡・県の制度がはっきりしなくなってしまった。その後村という名前もでき、荘・郷・村と呼ぶようになった。

701（大宝元）年には、参河（三河）の初代の国守が決定したという記録があり、7世紀の終わりごろには参河の国・碧海郡が出来て、郷や里が決められた。「倭名類聚抄（わみょうるいじゅしょう）」に9世紀ころの碧海（あおみ）郡には15の郷が置かれたという記録がある。碧海郡の15の郷の中に碧海郷があり、これが六ッ美村とその周辺と考えられている。この頃の碧海郡の人口は、約12,000人と推定されていて、土井と青野には、その頃の土地制度である、土地を縦横に区切った条理田（じょうりでん）の遺構が残っていた。

矢作川の流れは、奈良時代から天白、赤渋および中之郷の西側に移った。従って、六ッ美地区は矢作地区に比べて、弥生時代以後の土砂の堆積が多くなっている。矢作川の水流によって、上流から多くの土砂が運ばれてきて、川の下流に堆積する。堆積した土砂は格好の耕地になる。こうして川の中にできた耕地として利用される微高地を「自然堤防」と呼んでいる。そうした自然堤防に桑を植えて蚕を放し飼いにして、絹を収穫した。収穫された絹は都に運ばれ、上質の生糸として珍重された。絹は別名で「犬頭（いむがしら）の白糸」と呼ばれた。

〔倭名類聚抄〕

和名類聚抄は、平安時代中期に作られた辞書である。承平年間（931年 - 938年）、勤子内親王の求めに応じて源順（みなもとのしたごう）が編纂した。

・碧海荘の誕生（鎌倉時代）

碧海郷は12世紀半ば過ぎ（平安末期）に、この地方の豪族の荘園として囲い込まれ、碧海荘と名付けられた。三河の国司からの徴税を免れるため、国司の権力の及ばない鳥羽天皇の皇后以外の女性である「三条の女御」に形式的に寄進され、その名義上の所領となった。

1221年の承久の乱以後は、幕府の執権の娘婿である、足利義氏が三河の国の守護として来任し、碧海荘を管理する地頭職も手に入れた。13世紀末の「紀伊続風土記」では、碧海荘に占部郷、中郷、下青野郷、橋良（はしら）郷などが存在している。六ッ美の多くはその頃、和田郷という碧海荘の中の1つの集落に属していたと考えられている。

・江戸期の下中島（中島）村

江戸期村落	領主（石高）	1868 明治1年	1889 明治22年
安藤村	岡崎藩（93石）	安藤村	中島村
下中島村	小笠原伊勢領（1292石） 崇福寺領（30石） 長圓寺領（10石） 浄光寺領（3石） 神明社領（10石） 日長社領（10石） 住吉社領（3石）	下中島村	
高畑村	小笠原伊勢領（76石）	高畑村	

・明治期の碧海郡

大政奉還の後、三河においては、1868（明治元）年に三河県を設け、県庁を宝飯郡赤坂に置いた。しかし、諸藩の領地は依然変わらず、政権を奉還したといっても諸大名は籍を還さず、従来の藩政が続いていた。1869（明治2）年三河県を廃止して、伊奈県と合併した。この頃になって、ようやく、藩籍奉還の兆しが出て、諸藩相次いで土地、人民を朝廷に奉還した。

1872（明治4）年、廃藩置県の指令が下り、県、郡の制度が確立した。それに伴い、三河の諸県を廃止して、額田県のもとに碧海、幡豆、額田、加茂、設楽、宝飯、渥美、八名および知多の9郡をおき、県庁を岡崎城中に設けた。尾張では、1871（明治4）年の廃藩置県の際、名古屋、犬山の2県となったが、1871（明治4）年に両県を合併して名古屋県になった。1872（明治5）年に名古屋県を愛知県に改め、額田県を合併した。

・明治期の六ッ美

1878（明治11）年、郡区町村編成法に六ッ美関連村は以下のようになった。

組戸長役場	役場位置	所属村
第20組	下中島村	下中島村、高畑村、安藤村、福桶村
第21組	中村村	中村村、下三ツ木村、上三ツ木村、正名村、国正村、定国村
第22組	井内村	井内村、坂左右村、上和田村、下和田村、宮地村、野畑村
第23組	中之郷村	中之郷村、赤渋村、土井村、牧御堂村、法性寺村
第24組	下青野村	下青野村、上青野村、合歓木村、高橋村、在家村

1888（明治21）年、市町村制の公布があり六ッ美関連村は以下のようになった。4村は阿乎美（あおみ）村、占部（うらべ）村、中島（なかじま）村、糟海（かすみ）村である。

村名	役場位置	新町村大字名
阿乎美村	高橋	上青野、下青野、高橋、福桶、合歓木、在家
占部村	中	上三ツ木、下三ツ木、正名、国正、定国、坂左右、中、野畑、下和田
中島村	下中島	下中島、安藤、高畑
糟海村	法性寺	井内、宮地、法性寺、牧御堂、上和田、土井、中之郷、赤渋

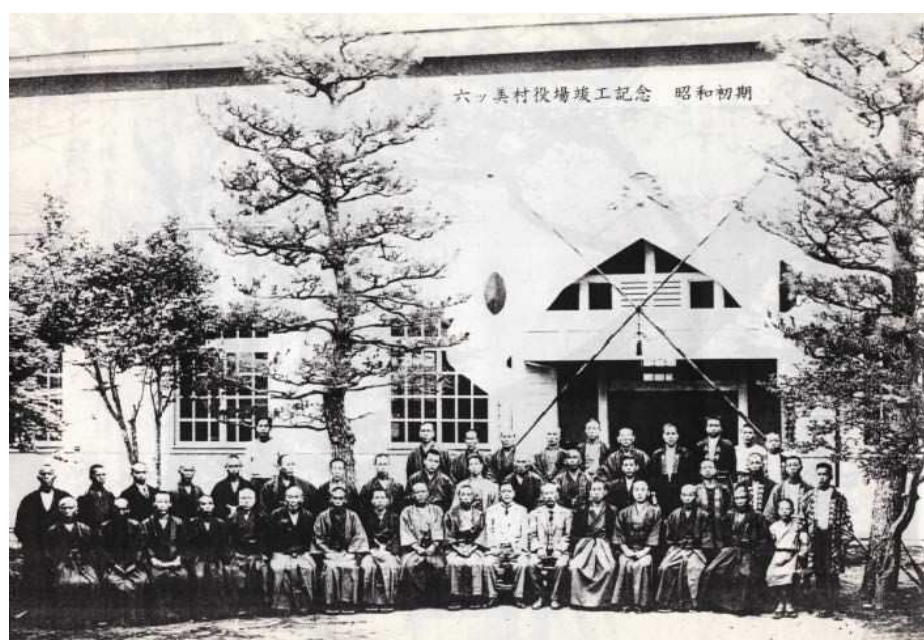
1891（明治24）年、阿乎美村が合歓木村と青野村に分割。1893（明治26）年、糟海村から土井と中ノ郷が分立し、中井村が発足。村名は、「中之郷」と「土井」から一文字ずつとった合成村名である。1901（明治34）年、市町村制の公布があり六ッ美関連村は以下のようになった。

村名	役場位置	新町村大字名
合歡木村	合歡木	高橋、福桶、合歡木
青野村	下青野	上青野、下青野、在家
占部村	中	上三ツ木、下三ツ木、正名、国正、定国、坂左右、中、野畑、下和田
中島村	下中島	下中島、安藤、高畑
糟海村	法性寺	井内、宮地、法性寺、牧御堂、上和田、赤洪
中井村	土井	土井、中之郷

1906（明治39）年、6村が統合して六ッ美村になった。初代村長は鍋田恒雄（1848～1931）。



明治後期の六ッ美村役場 六ッ美村誌より転写



昭和初期の六ッ美村 浄光寺提供



昭和初期の六ッ美村役場 目で見える岡崎・額田の百年より転写

・六ッ美の年表

- 1603（慶長08）年 占部用水完成
- 1883（明治16）年 高橋用水完工
- 1901（明治34）年 安藤川改修（1回）完工
- 1904（明治37）年 中島耕地整理完工
- 1906（明治39）年 6村が統合して六ッ美村になった。初代村長は鍋田恒雄（1848～1931）。
- 1908（明治41）年 六ッ美第3尋常高等小学校設立
- 1910（明治43）年 西尾軌道株式会社（後の西尾鉄道）設立。
- 1911（明治44）年 高橋用水改修（1回）完工
- 1915（大正04）年 悠紀斎田お田植え祭り
- 1919（大正08）年 斎田記念館開館（六ッ美支所内）
- 1933（昭和08）年 広田川改修（1回）完工
- 1942（昭和17）年 高橋用水改修（2回）完工
- 1944（昭和19）年 東海地震
- 1945（昭和20）年 三河地震
- 1949（昭和24）年 日本電装（株）創立
- 1951（昭和26）年 安藤川改修（2回）完工
- 1958（昭和33）年 六ッ美村から六ッ美町に変更、町制施行。初代町長は鍋田紀之である。
鍋田紀之は鍋田恒雄の孫にあたる
- 1959（昭和34）年 伊勢湾台風
- 1961（昭和36）年 安藤川改修（3回）施工
- 1962（昭和37）年 六ッ美町が岡崎市に合併
岡崎市に合併に伴い岡崎市立六ッ美南部小学校と改称
広田川改修（2回）完工
- 1964（昭和39）年 高橋用水改修（3回）完工
六ッ美南部学区市民ホーム開館
- 1965（昭和40）年 アイシン精機（株）創立
- 1969（昭和44）年 アイシン・エイ・ダブリュー（株）創立
- 1970（昭和45）年 （株）デンソー西尾製作所創業
- 1987（昭和62）年 （株）デンソー幸田製作所創業
六ッ美民族資料館開館（六ッ美支所内）
- 1993（平成05）年 高橋用水改修（4回）完工
- 1996（平成08）年 日本電装（株）から（株）デンソーに社名変更
- 1998（平成10）年 （株）デンソー善明製作所創業
- 2015（平成27）年 悠紀の里開館

本項は以下の資料を参照している。

[愛知県碧海郡誌]

発行所：(株) 千秋社
印刷所：図書印刷(株)
発行日：2000(平成12)年6月15日
原著：参河國碧海郡誌
発行者：碧海郡教育會
印刷所：江戸川印刷(株)
発行日：1916(大正5)年10月15日

[六ッ美村誌]

編者 六ッ美村是調査会
発行 六ッ美村是調査会
発行日 1926(大正15)年12月1日
発行所 日新堂書店
印刷所 活版印刷所

[六ッ美風土記]

編者 岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
監修 太田 満也
発行 岡崎市立六ッ美中部小学校父母教師会
発行日 1975(昭和50)年3月24日
印刷所 あいち印刷株式会社

[六ッ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 高須 亮平
発行日 2012(平成24)年3月31日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社
住所 岡崎市柱町福部池1-200

[わたしたちのふるさと 六ッ南114選]

監修者 総代会長 平井 良美
社教委員長 近藤 武美
著者 岡崎市立六ッ美南部小学校6年児童114名
(平成25年3月19日卒業)
編者 岡崎市立六ッ美南部小学校6年担任
権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
発行日 2013(平成25)年3月1日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社
製本 ブラザー印刷株式会社
発行 岡崎市立六ッ美南部小学校

[悠紀斎田中島案内]

編集人 牧 善丸、早川治三郎
発行人 牧 善丸
印刷者 中村角馬
発行日 1915(大正4)年6月5日
発売元 牧 つね、早川 芳太郎

[ふるさと六ッ美西部]

岡崎市六ッ美西部学区・ふるさと読本
編者 ふるさと読本編集委員会
発行 ふるさと読本編集委員会
発行日 2009年7月11日
印刷所 永田印刷所